

音読指導一覧表

全体音読

	種類	方法	ねらい・特徴
1	イチゴ読み	単語を1語ずつ先生の後に繰り返す。1語読みで席順に読んだり、グループ内で読んだりと変化をつける。	1年の入門期や、単語の細かい発音の確認をしたいときに有効である。
2	チャンク(スラッシュ)読み	意味のまとまりごとにかたまりにして読む。生徒はチャンク毎にスラッシュを入れていく。	英語の意味のかたまりに注意するようになり、直読直解にもつながる。
3	戻り読み	最後から一個ずつ単語や句を増やしながらか繰り返す。	単語 句 文と、スモールステップで練習ができる。
4	同時読み(Overlapping)	CDと同時に(小声で)読む。	モデルを聞きながら、同じ速さで読むため、集中して練習できる。十分な練習がシャドーイングにつながる。
5	音読2度読み	教師の後に、一文を2回ずつリピートする。生徒の活動量が2倍になる。	1回目はリピートであり、2回目はモデルなしで再生する力が必要である。2回目は5秒後などと設定してもよい。
6	パート読み	一文交代にしたり、会話文では役割に分けて読む。	列ごとや、席の前後、男女で分けるなど、変化を持たせる。
7	Look up Reading	“Repeat”で繰り返し、“Down”でもう一度本を見て自分で音読し、“Up”で顔を上げて(教科書見ずに)音読する。	今読んでいる文を次は見ないで言うという意識が働き、集中度が増す。1文ずつの達成感があり、暗唱につながる。
8	Shadowing	モデルの後を0.1秒くらい遅れて繰り返す。読むのではなく聞こえてきた英語を口移しに繰り返す。	テキストを見ずに聞こえてくる音声を、ぶつぶつとつぶやくように発音する。
9	英訳(翻訳)読み	教師が英文を読み、すぐに生徒がその英文を日本語にする。または教師が日本語を言って、生徒が英文にする。	最初は単語やチャンクごとに言うと、スモールステップで練習ができる。
10	Blank Reading	教師が一文を途中まで読んで次の単語を言わせて、また続ける。Ken is a high school (student) in (California).	()が生徒の言う部分である。意味を考えながら、リズムカルに音読する。ペア学習にも応用できる。
11	Response Reading	教師は英文を途中まで読んで黙る。残りの英文を全部生徒が言う。	どこで止めるかわからないので、集中して聞くことができる。ペア学習にも応用できる。
12	黒板消し読み	板書の英文を教師が少しずつ消し、それを生徒が読む。	単語 句 文と、スモールステップの手法で消していく。
13	指名無し音読	教師の指名なしで、生徒は自由に立って一文ずつ音読。	1人目にAAで評価すると、2人目からは意欲的になる。
14	四方八方読み	自分が読み終わったら、次に読む人を指名する。	送り返しはなしで、自分の席の前後左右の誰かを指名する。
15	つぶやき読み+大声読み	2つの読み方を手拍子の合図で交互に変えていく。	変化が欲しいとき有効。ペア・個人音読でも練習できる。